

# 復興への取組み

## 営農組合の設立 ～西戸川営農組合～

南三陸町西戸地区は多くの住民が住宅を被災し、仮設住宅暮らしを未だ余儀なくされています。

現在この地域では、復興交付金を活用した防災集団移転促進事業と農山漁村地域復興基盤総合整備事業が行われており、土地改良法の換地制度を活用した農地と防災集団移転用地の一体的な整備が進められています。

また、震災後、地域に残った若者たちへの期待が大きく、彼らを支えるために営農組合が設立されました。

### 西戸川営農組合

組合長の阿部壽男さんに話を伺いました

#### ■防災集団移転

当初、町からは防災集団移転用地として地区外への移転計画が示されました。

#### ■阿部壽男さん

我々西戸におった人間が、(町の)指定地に全部行ってしまったら、かろうじて被災を免れた10軒がどうなるんだと。そしたら(町と話し合いを重ねていくなかで)、津波の終末地点に嵩上げて、ほ場整備事業の中で移転用地を計画してはどうだろうということ、最終的にはそれで我々は理解して「お願いします」ということで進んでいます。

組合の若手で施設園芸を任されている星達也さんと、畜産を任されている星恵一さんに話を伺いました。恵一さんは震災前に農業をするために祖父母の住む南三陸町に移住してきました。

#### ■震災直後の思い

##### 達也さん

被災して、隣の町の避難所で生活してたんですけど、最初はこの地域に通いながらガレキを撤去したり、行方不明者の捜索をやっている、まずは目の前にあることだけで、将来的なことは考えられませんでしたね。

##### 恵一さん

元々ここに来た理由が仕事を辞めて「農業をやる」と覚悟を決めて来てるんで、そこら辺は津波ってああいう風に大きな災害ではありましたが、災害が来たからやめるとかそういうような覚悟で来てるんではないので、そこら辺はひよっとすると他の人とは意識が違いかもしれませんね。

#### ■今後の展望

##### 達也さん

中山間地ならではのきめの細やかな農業を進めていって、継続性と持続性のある農業を目指していければと思っています。

##### 恵一さん

再建するところから始めて、そこから余力が出たらではないんですけど、地域の人以外の方からも「一緒に農業をやりたい」という人が出てくれば、そういう方々とも一緒に手を取ってやっていきます。

組合の役員を務める阿部喜久男さんと阿部七七男さんはそんな若者たちに期待を寄せています。

喜久男さん  
現在7人、20代から30代の人たちがいるから、その人たちに頑張ってもらいたいね。我々を助けてもらいたい(笑)。

七七男さん  
いずれこの地域の中心となる人たちですからね。

地域の若者たちは、西戸川に住む皆さんの期待に答えようと日々農作業に勤しんでいます。



左から 阿部七七男さん、阿部壽男さん、阿部喜久男さん、星達也さん、星恵一さん

組合名	西戸川営農組合
設立年月日	平成24年12月
構成員	34名(役員9名)
経営内容	水稻 施設園芸 畜産



施設園芸用ハウス



小松菜の収穫作業



星達也さん



星恵一さん

